

- 会員番号 PE-250 氏名 大槻 直洋
- 専門分野 航空機の研究開発, 工作機械
- 保有資格 PE Mechanical Michigan 州, 技術士補
- PE 登録日 Jan, 2016
- (写真は米国駐在中@Flint, MI)



私は現在航空機の製造技術に関する研究に携わっております。FE / PE は米国駐在中に取ったものです。私は所先輩方のようにあの難関試験を一回で合格するほど優秀ではありませんので、PE にたどり着くまでに時間が少しかかっております。場所はすべてミシガン州です。

○登録までの道のり

- 2013年10月 FE 受験(筆記) Fail
- 2014年 4 月 FE 受験(CBT) Pass (合格判明したのは7月)
- 2014年7月 FE 合格判明後、すぐにMichigan 州へ申請のため書類作成を開始
- 2015年11月 Michigan 州へCredential Evaluation 通過結果とReference 関連書類を提出
- 2015年1月 Michigan 州より受験許可証が届く (登録)
- 2015年 4 月 PE 受験 Fail
- 2015年10月 FE 受験 Pass (合格判明したのは12月)
- 2015年 1月Michigan 州よりライセンスが届く



写真：FE とPE の試験会場

3. PE 登録体験記 1

(PE を目指した経緯)

私がPE を志したのは前職在籍中にご一緒させていただいた尊敬する先輩から紹介いただいたのがきっかけです。グローバルに活躍される先輩をみて私も世界に通用するエンジニア = PE になりたいと思うようになりました。まだPE になって間もないですが、PE になってからのエンジニアという言葉の重みは、PE になる前とは遥かに

重いものを感じており、PE という名前のもつ責任を感じながら日々仕事をしています。

(アメリカでの受験)

本誌をご覧になっている方々は日本国内で受験を目指している方が多いと思いますが、私はアメリカのミシガン州駐在中に受験しましたので、皆様とは少しプロセスが異なります。今後米国で受験される方の参考なればと思い書かせていただきます。米国の受験プロセスはこのようになっています。

- FE 受験登録時に受験する州登録をします。
- FE をその州で受けて合格したら、学歴審査、レファレンス等の書類をその州へ出します。
- その後PE 受験資格を登録した州に認めてもらい許可書類を発行してもらって、PE 試験を受けることができます。
- Ethics Exam がある州と無い州がありますが、ミシガンはありませんでした。
- PE 試験合格後その州からライセンスが発行されることになっています。

※**FE を受けたあとにPE で受験する州を変更できない仕組みになっている**ことにPE 試験をうけるときに気がつきました。

(州登録=PE 受験許可証をもらうまでの流れ)

① レファレンス

ミシガン州では自動車系の企業が多いためか、PE の認知度は低いのが実態。自動車業界では皆無でした。結局米国、カナダ、メキシコでお会いできた現地PE はGeneral Motors にいらつしゃった電気系のエンジニアのお一人でした。そういう環境ですのでFE 合格前あたりから、当時の会社先輩である紀和PE へ相談させていただき、川村会長、大西PE にレファレンスになっていただくことができました（全く面識のなかった私のレファレンスになっていただき本当に感謝しています）。ミシガン州ではトータル5名のレファレンス、そのうち3名はPE という制約があり、また経歴ごとに職務内容に関するレファレンスも必要で、日本側の職歴は所属元の上司、米国側は現地法人のアメリカ人の上司になっていただくことができました。

② 受験の制約

ミシガン州はSSN=Social Security Number(日本でいうところのマイナンバー)が求められますが、駐在すればおのずと取ることになるため、こちらは問題ありませんでした。

③学歴審査

私の場合は学部と院で異なる大学でしたので、それぞれの教務と太平洋を越えて掛け合いました。学部側はシラバスを私が全訳したのち、その翻訳をJSPE の学歴評価支援サービスを利用して評価いただきました。このサービスは本当に助かりました。おそらくこのサービスを利用していなかったら、学歴審査を通過していなかったと思います。このサービスの結果をもって、大学側に英訳を承認していただいて、直接学歴審査へ送付いただきました。一方、大学院側は苦労しました。大学院側が自ら翻訳するのNG、私が翻訳したのも承認しないというスタンスを最後まで貫き、結局日本語のシラバスをアメリカの政府認定の翻訳機関で翻訳してもらいました（コスト\$160）。

日本とのやり取りがとても大変でした。結局学部時代の（JSPE の学歴評価支援サービスを利用した）単位

でCredential Evaluation をパスしてしまったので、かなり拍子抜けしました。

④ミシガン州から許可書類

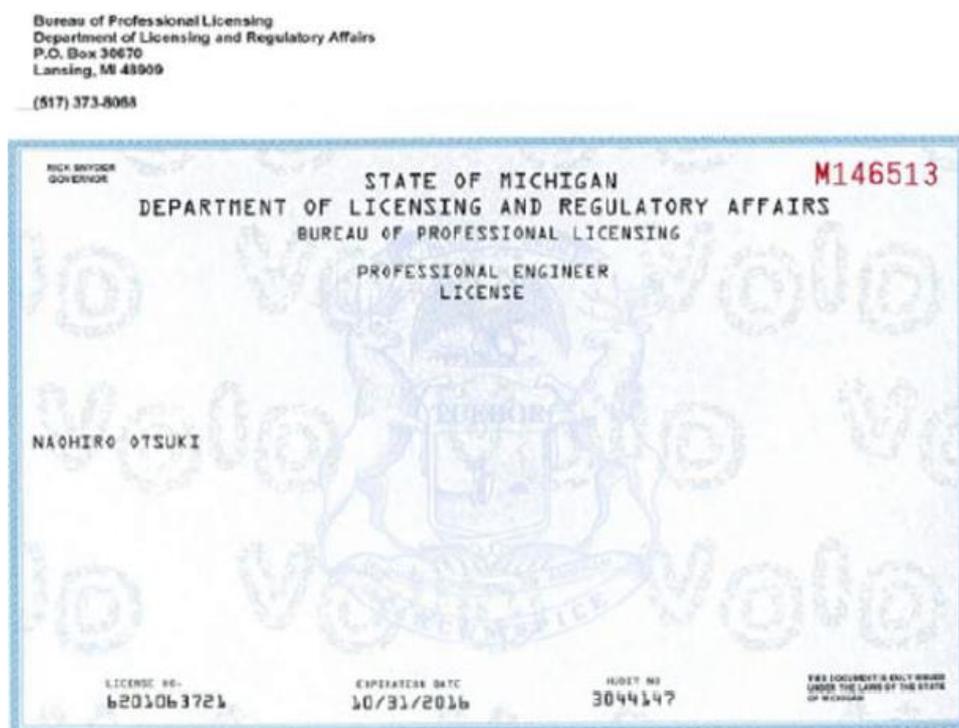
全書類を提出後、一ヶ月程度してミシガン州から「登録されたのでPE 試験受けてもいいよ」という趣旨の一枚の紙が届きました。①から④までFE 合格発表から半年で準備しました。

⑤PE 試験

PE 受験はミシガン州のcollege で二度受験しました。（こちらの詳細は受験記のほうで詳しく解説させていただきます）

⑥ライセンス発行

PE 合格判明後、ミシガン州へ二度「ライセンスまだですか？」というフォローをしたのち、NCEESのPE 試験のPass とかいてあるページを郵送で送ってようやく以下のようなライセンスが届きました。



おまけですが、PE スタンプは自分で適当なスタンプ会社を探して作らなければなりません。私は州がスタンプも発行してくれると思っていたので、「スタンプ(seal)がないんですけど、、、」と州に電話で問い合わせしてしまいました。皆様はそういったことはしないと思いますが、念のため。。

アメリカの文化と同様、PE 試験においても人と人のつながり＝コミュニケーションを重視したものになっており、周囲の人の支えがなければ決して達成することができないようになっていきます。レファレンスになっていただいた皆様と家族の支えがなければPE にはたどり着くことができませんでした。川村会長、大西PE、紀和PE に加えて、たくさん試験のアドバイスをしてくださった藤村PE には心よりお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。また、長期戦になってしまった試験勉強をささえてくれた家族にも感謝したいと思います。